

中学生の職業意識調査から見えるキャリア教育の課題

永柄真澄, 横田秀策

The Problem of Career Education as Seen from Surveys Regarding Vocational Consciousness of Junior High School Students

Masumi NAGAE, Shusaku YOKOTA

I. 緒言

キャリア教育は、学校教育全体の活動を通じて体系的に行うことが重要であり、各学校においては、生徒や地域の実態に応じ全体計画の作成に当たっていくことが望まれる。そのため、自校の生徒におけるキャリア発達上の課題を明確に把握し、キャリア教育の目標を設定する必要がある。そのために、日常の生活や学習の特徴、人間関係形成の様子、集団活動や勤労生産的活動に対する意識などの分析により課題を検討し、各学年の生徒の実態に基づいた目標を設定する必要がある⁽¹⁾。

本研究の対象校であるA中学校は、九州圏内の中心部に位置しながら、家庭環境に困難を抱えた生徒も少なくない、開校以来さまざまな教育課題を抱えている教育困難校であり、平成18年度には、「市内で最も荒れた学校」とさえ囁かれる学校であった。

そんな教育困難な状況の中、A中学校では、危機感を持った校長のリーダーシップのもと教職員が組織的な指導に取り組み、問題の未然防止、早期発見、早期対応を心がけ、子どもの自己肯定感の育成に努めていった。

キャリア教育についても、生徒の自主・自立の力を育む重要な柱として取り組むこととなり、年間カリキュラムの中で、教科を通じたキャリア教育指導の他、全校挙げてのキャリア教育行事が設定された。将来への「立志式」、キャリア教育集中週間（キャリアウィーク）などである。

「立志式」とは、2年生の生徒一人ひとりが、中学校生活を通して立志し、将来に向けて取り組む姿勢を宣誓する式典であるが、自らのキャリアを意識し、積極的に取り組む態度を養うとともに、1年生も次年度の伝統行事の後継者として、役割の自覚を養うことを目的として参加している。

キャリア教育週間は、

- ① キャリア教育講話……職業選択や職業生活に関する題材をもとに、夢や目標をもつことの大切さ、目の前のことを精一杯頑張り、変わり目やチャンスを前向きにとらえる生き方について

の講話学習。

② キャリアインタビュー……担任教師が、教員という職業を選択し、職業に就くまでのルートについてのインタビュー場面の参観学習。

③ Job study.jp……学校内職業体験。地元の企業の協力で、数種の職業についての紹介を聞いた後、実際に仕事の一部を体験する学習。

といったキャリアを考え、体験する集中総合学習期間である。

これらの全校的な取り組みの効果と教職員の努力については、平成25年に文部科学大臣より感謝状が授与されている。

生徒一人一人の自己肯定感を育むことを目的とした取組が積極的に行われてはいるものの、これまで対象校の生徒の職業に関する意識等の実態調査は行われたことがなく、生徒の実態と課題に即した内容であるかについては、今後のさらなる方向性を探る上でも検討する必要がある。

そこで、生徒のキャリア教育に関する実態調査を行い、あらためてその課題を掌握すると共に、現在実施中の内容を含め、課題に即したカリキュラムについて検討することを研究の目的とした。

Ⅱ. 方 法

1. 対象と方法対象者

対象者は、A中学校1年生全136名（男子82名、女子56名）であった。

調査は、2012年9月、1年生のキャリア教育集中週間（キャリアウィーク）における、Job study.jp（学校内職業体験授業）の体験事前調査の中で行われた。

2. 調査項目

（1）基礎的・汎用的能力

キャリア開発の基礎となる能力を把握するために、職業生活の基盤となる基礎的・汎用的能力についての質問紙調査を行った。

職業生活の基盤となる基礎的・汎用的能力は、中央教育審議会答申（平成23年1月31日）において、キャリア教育の枠組みとして示された能力で、分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力である⁽²⁾。その測定においては、学校キャリア教育の手引き⁽¹⁾の中に例示されている生徒アンケートの項目を、5段階評価の質問項目に改変し、①人間関係形成社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力の4つの能力別得点及びその合計得点について評価を行った。

（2）日常生活での職業に関する会話や職業意識

日常生活における職業に関する会話や職業意識については、「家で、家族の仕事や自分の将来の仕事の話をすることはあるか」「いろいろな職業について知ることは、職業につく前に必要だと思うか」「職業体験をしてみたいと思うか」の3項目について、それぞれ5段階評価を行った。

3. 分析方法

- (1) 全対象者136名の4つの基礎的・汎用的能力別得点を，反復測定（被験者内要因）の一元配置の分散分析を用いて比較を行った。
- (2) 基礎的・汎用的能力について，性別の特徴の有無を調べるため，4つの能力別得点及び総合得点のそれぞれについて，男女別の比較を行った（Mann-Whitney's U test）。
- (3) 基礎的・汎用的能力と家庭における職業に関する会話との関係性について調べるため，4つの能力別得点及び総合得点と職業に関する会話及び職業意識についての3項目について，相関係数（Spearman's rank correlation coefficient）を調べ，生徒の職業に関する実態と課題について考察した。

4. 倫理的配慮

本研究は，キャリア教育の授業の事前意識調査として行われているが，対象者には研究の趣旨と共に，調査結果は成績等には関係がなく，回答を拒否した場合も不利益はないことが説明されている。また，調査データは学年全体のデータとして処理され，個人の特定や評価等を行うことはなく，プライバシーは保護されていることも説明され，質問紙への回答を持って同意を得たことを確認した。

Ⅲ. 結 果

全対象者の比較では，基礎的・汎用的能力の4項目の得点には有意な差があり，多重比較の結果，「人間関係形成・社会形成能力」の得点は，「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」の得点と比較して有意に高かった（ $F(3, 390) = 8.408, p = 0.000$ ）（表1）。

さらに，男女別の比較では，「人間関係形成・社会形成能力」及び「自己理解・自己管理能力」の得点は，男子の得点に比べ女子の得点有意に高かった（表2）。

また，「家で家族の職業や将来のことをよく話すことがある」と「職業体験をしてみたい」と

表1 A中学校の生徒の職業生活の基盤となる基礎的・汎用的能力（全生徒）

〈全対象生徒〉

能力名		人間関係形成社会形成能力	自己理解・自己管理能力	課題対応能力	キャリアプランニング能力	基礎的・汎用的能力総合得点
(得点範囲)		(3-15)	(3-15)	(3-15)	(3-15)	(12-60)
人数	有効	136	135	135	134	131
	欠損値	5	6	6	7	10
平均値		11.05	10.08	10.23	10.74	42.03
中央値		11.00	10.00	10.00	11.00	43.00
標準偏差		2.34	2.23	2.46	2.89	8.20

$p = 0.000^{**}$

表2 A中学校の生徒の職業生活の基盤となる基礎的・汎用的能力（男女別）

〈男女別〉

能力名		人間関係形成社会形成能力		自己理解・自己管理能力		課題対応能力		キャリアプランニング能力		基礎的・汎用的能力総合得点	
(得点範囲)		(3-15)		(3-15)		(3-15)		(3-15)		(12-60)	
	性別	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
人数	有効	81	55	80	55	81	54	81	53	80	51
	欠損値	1	1	2	1	1	2	1	3	2	5
平均値		10.59	11.73	9.80	10.73	10.10	10.43	10.62	10.92	41.13	43.45
中央値		11.00	12.00	10.00	11.00	10.00	11.00	11.00	11.00	41.00	44.00
標準偏差		2.46	1.99	2.24	2.10	2.37	2.58	2.93	2.84	8.39	7.77
男・女比較 (p 値)		0.006**		0.014*		0.233		0.512		0.117	

表3 職業に関する家庭での会話や意識と基礎的・汎用的能力についての相関関係

	1	2	3	4	5	6	7	8
1 家で家族の職業や自分の将来話すことがある	—	0.166	0.391**	0.272**	0.347**	0.285**	0.543**	0.450**
2 事前に職業知ることは必要だと思う		—	0.146	0.224**	0.304**	0.232**	0.273**	0.327**
3 職業体験してみたい			—	0.271**	0.296**	0.195*	0.343**	0.332**
4 人間関係形成・社会形成能力				—	.0508**	0.678**	0.568**	0.816**
5 自己理解・自己管理能力					—	0.489**	0.547**	0.737**
6 課題対応能力						—	0.588**	0.843**
7 キャリアプランニング能力							—	0.836**
8 基礎的・汎用的能力総合得点								—

※数字はスピアマンの相関係数、**は $p<0.01$ 、*は $p<0.05$ を示す。

の間には、1%水準で有意な相関があり、家庭で家族の職業や将来について話す機会がある生徒ほど、職業体験に意欲的な傾向があった（表3）。

さらに同項目及び「事前に職業について知ることは必要だと思う」と基礎的・汎用的能力の4つの項目と総合得点との間にも、1%水準で有意な相関があった（表3）。

IV. 考 察

これらの結果から、思春期初期の発達段階にある対象校の中学1年生は、社会的・職業的自立の基盤となる4つの能力の中では、「人間関係形成・社会形成能力」の修得については比較的自覚しており、女子の方がより顕著に自覚していることが明らかとなった。

Holland⁽³⁾の職業興味理論によると、男性は現実的な興味がより高く、女性は社会的興味がより高いといわれている。本研究の対象は、中学1年生という思春期初期の発達段階の生徒であるが、女子中学生の「人間関係形成・社会形成能力」が男子中学生のそれより高い結果となったことは、職業興味の性差がすでにこの時期から認められることが裏付けられた。

また，Sherri (2010)⁽⁴⁾は，アメリカ都市部の中学生の同性間と異性間の職業興味と職業開発の技術の違いについて，女子は精神的なサポート，男子はより現実的な手段のサポートによって職業世界の学習を行う傾向があることを報告している。国や人種の違いもあり，単純に参考にすることはできないが，我が国の都市部の中学生の職業興味における性差は，アメリカの先行研究とも共通点があることが推察された。

本研究により，家庭で家族の職業や将来について話したりする機会がある生徒は，職業体験に意欲的であり，職業探索のモチベーションが高いと予想できるが，家庭環境に恵まれない生徒は，家族の職業や自分の将来について話す機会が少なく，職業探索への意欲を高める社会支援が少ないことも心配された。

Lapan (2004)⁽⁵⁾は，若年者に対する新しいキャリア開発モデル ICM (Integrative Contextual Career Development) の中で，若年者の職業開発は，自分自身の環境を背景として，6つの重要なキャリア開発技術によって促進されると述べている。ICM モデルで重要な技術とは，(a) 職業探索 (career-exploration) (b) 人と環境の適合 (person-environment fit) (c) ゴールセッティング (goal-setting) (d) 社会的・向社会的職業レディネススキル (social, prosocial and work readiness skills) (e) 自発的学習スキル (self-regulated learning skills) (f) 実質的・精神的なサポート (Instrumental and emotional support) であり，若年者にとって，具体的な職業情報を与えてくれたり，職業や人生のゴールについての相談にのってくれたり，精神的な励ましを与えてくれたりする人的サポートは重要であることが示唆されている。

家庭環境に恵まれない生徒には，職業探索への意欲を高めるための社会支援として，それを補う学校教育の支援が重要であるだろう。

本研究の対象校の「立志式」は，将来に向けて自ら取り組む姿勢と態度を養うことを目的とした2年生対象の式典であるが，1年生も参加し，中学校生活を通しての立志を通して，クラス担任やクラスメイトと共に将来の職業について考え，話し合う機会にもなっており，地域（家庭）環境による課題に即したキャリア教育であることが裏付けられた。

さらに，数年前より取り組んでいるキャリア教育集中週間（キャリアウィーク）には，職業インタビュー，校内・校外職業体験をはじめとした様々な体験内容を含んでいるが，その1つ1つの効果については，体験前後の生徒の意識変化等の評価を改めて行う必要がある。

V. 限界と課題

本研究は，研究対象校の中学生の職業に関する基礎的・汎用的能力及び日常生活環境と職業意識についての横断的な調査と，それらの分析による考察であるため，現行の教育内容との直接的な因果関係等については言及することはできない。

教育内容については，それぞれの教育活動の前後に，基礎的・汎用的能力や職業興味，職業意識等の変化についての評価を行い，それらの効果について検証していくことが必要であり，今後の課題となった。

引用文献

- (1) 「第2章中学校におけるキャリア教育の推進のため、第2節全体計画の作成」『文部科学省学校キャリア教育の手引き』（平成23年5月）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/1306815.htm
- (2) 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」『中央教育審議会答申』（平成23年1月31日）
- (3) Holland, J. L. (1994). The Self-Directed Search, Form R (4th ed.). Lutz, FL: Psychological Assessment Resources.
- (4) Sherri L. Turner and Julia L. Conkel "Evaluation of a Career Development Skills Intervention With Adolescents Living in an Inner City" *Journal of Counseling & Development* Fall 2010. Volume 88 pp.457-465
- (5) Lapan, R. T. "Career development across the K-16 years: Bridging the present to satisfying and successful futures." Alexandria, VA: American Counseling Association, 2004.